

柔 道

第77回 葛飾区民春季柔道大会

令和6年5月26日（日）

於 奥戸総合スポーツセンター体育館

〒124-0022 葛飾区奥戸7-17-1

TEL 03(3691)7111

主 催 葛 飾 区
葛 飾 区 教 育 委 員 会
一般社団法人葛飾区スポーツ協会
主 管 葛 飾 区 柔 道 連 盟

協賛者



<https://x.gd/zS6At>

プログラム（このデータ）



<https://x.gd/zEaxu>

審判法の資料



<https://x.gd/mdQp0>

大 会 次 第

- | | | | | |
|----|---|---|---|---|
| 1. | 開 | 会 | 宣 | 言 |
| 1. | 国 | 歌 | 斉 | 唱 |
| 1. | 会 | 長 | 挨 | 拶 |
| 1. | 来 | 賓 | 祝 | 辞 |
| 1. | 試 | 合 | 場 | 上 |
| 1. | 選 | 手 | 宣 | 誓 |
| 1. | 投 | の | | 形 |
| 1. | 試 | | | 合 |
| 1. | 表 | | | 彰 |
| 1. | 閉 | 会 | 宣 | 言 |

参 加 団 体

安 谷 屋 道 場 (安)	金 町 中 学 校 (金)
光 徳 館 柔 道 ク ラ ブ (光)	葛 美 中 学 校 (葛 美)
円 城 寺 道 場 (円)	修 徳 中 学 校 (修)
宮 下 道 場 (宮)	本 田 中 学 校 (本)
関 川 道 場 (関)	双 葉 中 学 校 (双)
東 京 拘 置 所 (拘)	水 元 中 学 校 (水)
葛 飾 警 察 少 年 柔 道 ク ラ ブ (葛 少)	大 道 中 学 校 (大)
亀 有 警 察 少 年 柔 道 部 (亀 少)	修 徳 柔 道 ク ラ ブ (修 ク)
小 杉 柔 道 ク ラ ブ (杉)	青 葉 中 学 校 (青)
榮 進 館 柔 道 ク ラ ブ (榮)	綾 瀬 中 学 校 (綾)
真 陽 館 柔 道 ク ラ ブ (真)	高 砂 中 学 校 (高)
修 徳 高 校 (修)	葛 飾 区 民 (一 般)
葛 飾 野 高 校 (葛 野)	

大 会 役 員

(敬称略・順不同)

大会名誉顧問	青 木 克 徳		
大 会 顧 問	山 口 那 津 男	平 沢 勝 栄	北 口 つ よ し 平 田 み つ よ し
	葛飾区議会議長	葛飾区教育長	(一社) 葛飾区体育協会会長
	葛飾警察署長	亀有警察署長	東京拘置所長
大 会 参 与	牛 山 正	大 高 拓	安西まさのぶ 舟 坂 と も
	登 山 勲		
大会相談役	小 林 和 夫	安 蒜 貞 夫	高 橋 昭 好
大会名誉会長	関 川 喜 久 美		
大 会 会 長	佐 藤 勝		
大会副会長	小 池 修 市	田 中 威 勢 夫	菅 野 拓
大会委員長	岩 澤 正 文		
大会副委員長	宮 下 徹	鈴 木 茂	板 倉 幸 雄 円 城 寺 良 紀
	内 山 雅 人		
大 会 総 務	鈴 木 茂	大 森 淳 司	梅 田 信 昭
会 計	円 城 寺 良 紀	湯 口 弥 市	橋 本 訓 宏
庶 務	梅 田 信 昭	登 山 環	
記 録	中 島 嘉 和	橋 本 訓 宏	
進 行	板 倉 幸 雄	小 池 修 市	
受 付	円 城 寺 良 紀	橋 本 訓 宏	湯 口 弥 市 円 城 寺 諒 一
入 場 ・ 選 手 係	宮 下 徹	鈴 木 茂	
式 典 係	高 橋 昭 好	野 崎 雅 人	西 卷 靖 之 片 桐 且 元
	中 崎 亀 雄	梅 田 信 昭	
救 護 係	多 田 哲 也	登 山 環	

審判員

(順不同 ◎主任 ○副主任)

審判長 内山 雅人

第一試合場	◎ 前 瀧 大 吾 隅 井 昭 典 津久井佑隆 稲 岡 佑 樹	○ 中 田 貴 司 飯 川 吾 一 村 井 一 平	藤 本 健 太 宇野友紀子 橋 本 英 世
第二試合場	◎ 富 樫 百 年 宮 田 邦 亮 野 澤 必 勝 大 金 良 二	○ 丸 山 豊 竹 田 忍 佐 藤 江 美	新 井 宏 行 灘 山 司 佐 石 井 賢 利

試 合 場 係

第一試合場 ◎ 関川恒平 伊藤真由美 桜井秀樹
 桜井玖心花 清水敦子

第二試合場 ◎ 宮崎美由紀 冨 樫 翔 山 口 英 樹
羽佐田達也 大 熊 布 武 大 村 稔

修徳中学高等学校柔道部 (18名)

選手宣誓

原 準之介 (小5・円城寺道場)

投の形 (取) 富 樫 庵 (中3・小杉柔道クラブ)

(受) 石 倉 和 航 (中3・小杉柔道クラブ)

大会要項

1 出場資格

区内に在住・在勤・在学及び所属に在籍する修行者

2 試合開始

*開会式	午前 9時30分
*幼年の部・小学生の部	午前 9時45分
*中学生男子の部・中学生女子の部	正午
*青年男子の部・青年女子の部	午後 1時30分

各部の試合終了後に当該部の表彰式を行います。

開始時刻は目安で、表彰式終了後に次の部の試合を直ちに開始します。

3 試合方法

学年別、段別ごとにトーナメント戦により

優勝者を決定する。

- 1) 幼年・小学1年生～3年生（男女混合で4部門）
- 2) 少年男子の部（小学4年生～6年生、中学生で6部門）
- 3) 女子の部（小学4年生～6年生、中学生、青年女子で7部門）
- 4) 成年男子の部（無段・初段・二段・参段で4部門）

4 試合時間

- 1) 小学生の部 2分
- 2) 中学生の部・青年女子の部 2分30秒
- 3) 青年の部 3分

5 審判規定

- 1) 国際柔道連盟試合審判規定及び国内における「少年大会特別規程」で行う。
- 2) 勝敗判定基準は「一本」「技有」「僅差」とする。

※「僅差」について

技による評価が同等で「指導」の差が2の場合、指導のない選手を優勢勝ちとする。また、指導差が1以下の場合は旗判定により必ず勝者を決定する。

6 表彰

各部門ごとに第1位から第3位（2名）までの勝者を表彰する。

出場選手全員に参加賞を授与する。

- 敢闘賞 ・幼年の部及び小学生の部において、ベスト8に勝ち上がり
準々決勝で敗退した選手。
・中学生の部において、各部の出場選手が15名以上で、
かつ上記の条件を満たす選手。

7 保険

- 1) 主催者が参加者全選手に対して傷害保険の手続きを行い、その費用を負担する。
- 2) 大会中の不慮の負傷、疾病については、応急処置を施すとともに傷害保険の範囲内で責任を負うものとする。

8 ゼッケン

- 1) 各選手は、着用する柔道衣に規定の大きさのゼッケンを正しく縫い付けること。
- 2) 所属名は、（公財）全日本柔道連盟に登録した団体名とする。
- 3) ゼッケンを取り付けてこない選手は失格とする。
- 4) ゼッケンの仕様と縫い付け方。
 - ①サイズは横 30～35cm・縦25～30cmとする。
 - ②布地は白色（晒・太綾）
 - ③書体は太いゴシック体又は明朝体で横書きとし、男子は黒色、女子は濃赤色。
 - ④苗字（姓）は上側2／3、所属名は下側1／3。
 - ⑤縫い付けの位置は、後ろ襟から 5cm～10cm下部とし、周囲と対角線に強い糸で縫い付ける。

脳震盪について

- 1) 大会前1ヶ月以内に脳震盪を受傷した者は、脳神経外科の治療を受け、出場許可を得ること。
- 2) 大会中、脳震盪を受傷した者は、継続して当該大会に出場することは不可とする。
なお、至急、専門医（脳神経外科）の精査を受けること。
- 3) 練習の再開に関しては、脳神経外科の診断を受け、許可を得ること。
- 4) 当該選手の指導者は大会事務局および全柔連に対し、書面により事故報告書を提出すること。

国内における「少年大会特別規程」

国内における少年（中学生以下）の試合は、国際柔道連盟試合審判規程に則って行われるが、安全面を考慮し、次の条項を加えて行うものとする。

第17条（抑え込み）

附則として次を加える

寝技の攻撃・防御において、脊椎及び脊髄に損傷を及ぼす動作と判断したときは「待て」とする。

第18条 禁止事項と罰則

指導（軽微な違反）

1. 立ち姿勢で相手の後ろ襟、背部又は帯を握ること。
ただし、技を施すため、瞬時的（1, 2秒程度）に握ることを認める。
（注）中学生は、試合者の程度に応じて、後ろ襟を握ることを認める。
2. 両膝を最初から同時に畳について背負投等を施すこと。
3. 関節技及び絞技を用いること。
4. 無理な巻き込み技を施すこと。
5. 相手の頸を抱えて大外刈、払腰などを施すこと。
6. 小学生以下が、裏投を施すこと。
7. 「逆背負投」（通称）の様な技を施すこと。
8. 両袖を持って投げ技を施すこと。

反則負け（重大な違反）

1. 攻撃・防御において、故意に相手の関節を極めること。

（附則）

指導（軽微な違反）

1. 「相手の後ろ襟、背部又は帯を握ること」関係
 - ①「後ろ襟」とは、柔道衣を正しく着用したときの頸の後ろ側（うなじあたり）の範囲をいう。試合者の一方が後ろ襟を握った後、その襟を引き下げて側頸部にずらした場合でも「後ろ襟」とみなす。
 - ②「背部を握る」の範囲は、目安として肩の中心線に手首がかかるような状態をいう。背部を握った後、柔道衣をたぐりよせて釣り手の一部の指が後ろ襟の内側を握る状態になっても背部とみなす。特例として「後ろ襟、又は背部を握った」状態で、通称ケンケン内股等（内股に限らずケンケンとなる大内刈や大外刈等）をかけることは、〔瞬時的（1, 2 秒程度）〕の事項を適用せず、また、その後、連絡した技や変化した技についても、技の効果が途切れるまで継続を認める。
2. 「両膝を最初から同時に畳について背負投等を施すこと。」関係
両膝を最初から畳につくとは、膝の外側部、内側部も含む。同時はもちろん、ほとんど同時と見なされる場合も含む。技が崩れた結果である場合は反則としない。
3. 「関節技及び絞技を用いること。」関係
 - ①寝技の攻撃・防御において、脚を交差して相手を制しているだけの状態は、三角絞とはみなさない。抑え込もうと脚を交差して相手を制止した後、絞まっている状態あるいは脊椎及び脊髄に損傷を及ぼす動作と判断した場合は、受傷を防ぐために、早めに「待て」とする。また、通称「三角固」の体勢となった時点で、危険な状態ではないと判断しても、交差している脚を直ちに解かなければ「待て」とする。交差していた脚を直ちに解けば、寝技の攻撃・防御は継続となる。
 - ②故意ではなかったが、絞技および関節が極まった場合は、「待て」とする。

4. 「無理な巻き込み技を施すこと。」関係

「無理な巻き込み」とは、軸足のバネを利かすことなく、体を利用して倒れ込むようにして巻き込んだ技をいう。技が崩れた結果である場合は反則としない。

5. 「相手の頸を抱えて施す大外刈、払腰などを施すこと。」関係

「相手の頸を抱えて施す大外刈、払腰等」とは、明らかに腕を相手の頸に巻きつけて施した場合のみをいう。

7. 「「逆背負投」（通称）の様な技を施すこと。」関係

例えば一方の試合者が右組み、他方の試合者が左組みの体勢から、右組みの試合者が、正しく組んだ釣り手側の前襟を両手で握りながら、右足前回り捌き又は、左足後回り捌きで技を施し、相手を左方向に一回転させながら捻りを加えて、背中、又は頭から投げ落とす様な技をいう。但し、背負投を施して、相手が技を防御するために反対の肩越しに落ちた場合は含まない。

8. 「両袖を持って投げ技を施すこと。」関係

相手の両袖を左右それぞれの手で持ったまま袖釣込腰、大外刈、外巻込等の技を施した場合をいう。但し、相手の片袖を持って、相手に自身の片袖を持たせたまま内股等の技を施した場合は含まない。

改廃

本規程の改廃は、審判委員会において協議し、理事会の承認を得て行う。

付則 この申し合わせは、平成22年5月1日から実施する。

この申し合わせは、平成23年6月14日から部分変更して施行する。

この申し合わせは、平成27年3月31日から改正し、平成27年6月1日から施行する。

この申し合わせは、平成27年11月30日から申し合わせを特別規定として改正し、施行する。

この特別規定は、平成30年3月1日から改正し、平成30年4月1日から施行する。

この特別規定は、令和3年3月15日から特別規程と改正し、施行する。

この特別規程は、2022年1月24日から改正し、2022年4月1日から施行する。

この特別規程は、2023年12月8日から改正し、2024年4月1日から施行する。

試合場におけるコーチの振る舞いについて

平成24年4月1日
公益財団法人全日本柔道連盟

＜コーチの役割＞

1. コーチは、選手への様々な状況における指示、戦術的なアドバイス、怪我の対応など、選手とのコミュニケーションを取ることを目的とする。
2. コーチは、自身の選手が大会会場に入場してから退出するまでの間、選手の行動に責任を持たなければならない。

＜コーチの場所＞

1. 原則として各試合場の正面と反対側、あるいは試合場の横側に、コーチ1名のみ入ることが許され、用意された椅子に着席しなければならない。
2. 伝統的にコーチを認めていない大会（全日本選手権大会など）においては、主催者の判断による。

＜コーチの言動＞

1. 試合が止まっている間（「待て」から「始め」の間）のみ、選手に対して指示を与えることができる。試合続行中は、選手に対して指示を与えることが許されない。
2. 次の行為を禁止する。
 - (ア) 試合が続行している最中に指示を出すこと。また、試合中に立ち上がること。
 - (イ) 審判員の判定に対し、コメントや批判、或いは訂正を要求すること。
 - (ウ) 対戦相手、審判員、役員、一般客、および自分自身の選手を侮辱するような行為
 - (エ) 広告看板や器具に触ったり、殴ったり、蹴ったりすること。
 - (オ) その他、柔道精神に反する行為
3. 原則として、コーチは審判員に準じた服装とし、IDカードを付けるものとする。

＜罰則＞

上記に違反した場合は、下記による処分を科すものとする。

1. 1回目は、審判員が合議の上、口頭による注意をする。
2. 1回目の注意で改善されない場合は、審判員が大会委員長または審判長に報告の上、大会委員長または審判長の責任のもとにその試合が終了するまで試合場フロアの外へ退去させる。但し、試合はその後も続行するものとする。
3. 次の試合からは、またコーチ席に座ることができるが、その後も改善が見られない場合は、その大会期間を通して試合場フロアへの入場を禁止する場合もある。

以上

大会本部席

第一試合場

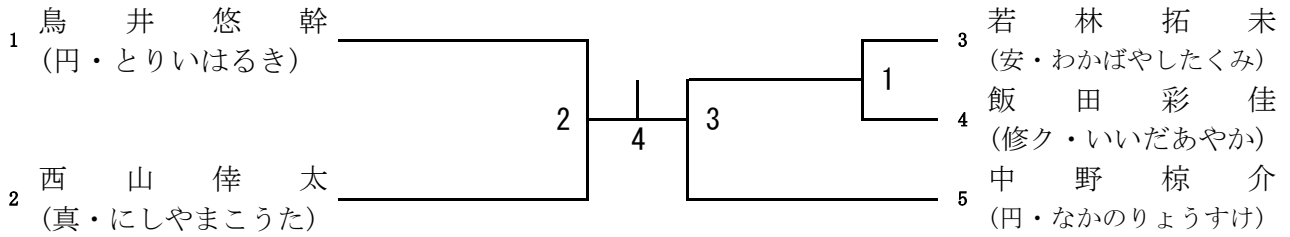
小	1	(男 女)	
小	2	(男 女)	
小	5	女	子
小	5	男	子
小	6	女	子
中	1	男	子
中	3	男	子
中	3	女	子
青	年	女	子
式			段
参			段

第二試合場

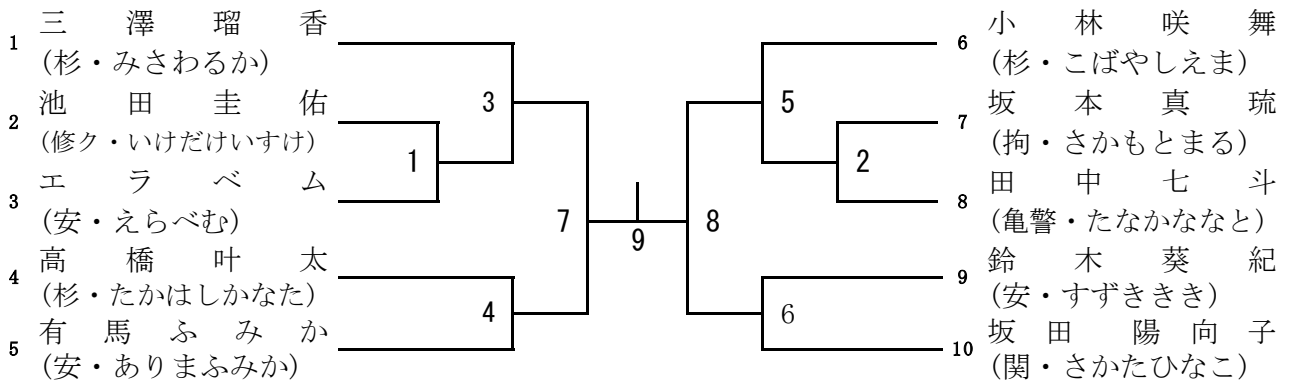
小	3	(男 女)	
小	4	男	子
小	4	女	子
小	6	男	子
中	1	女	子
中	2	男	子
中	2	女	子
無			段
初			段

* 試合進行により試合場を変更する場合があります。

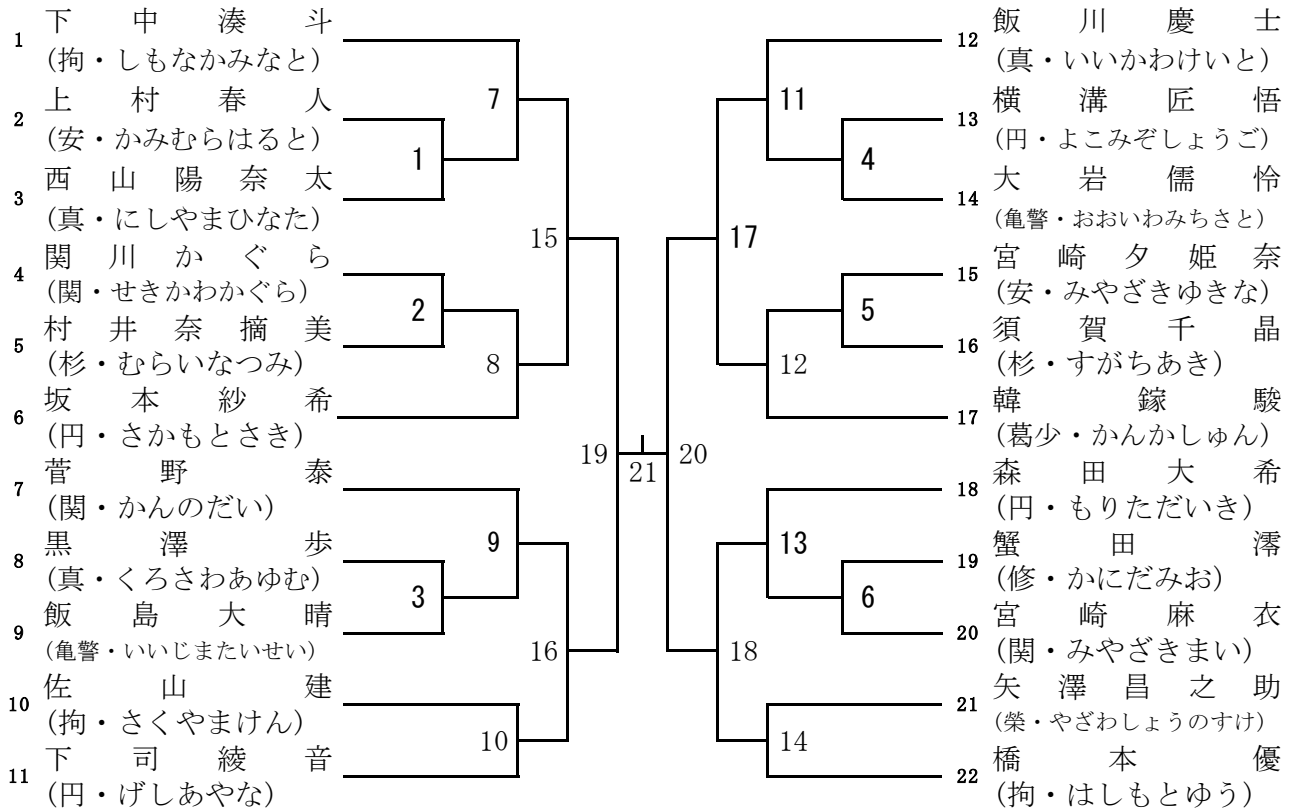
小学1年（男女）の部



小学2年（男女）の部



小学3年（男女）の部



小学4年女子の部

1	渡 邊 光 (葛少・わたなべひかり)	1	3	2	3	下 司 花 音 (円・げしかのん)
2	関 川 か ん な (関・せきかわかな)				4	唐 松 由 奈 (修ク・からまつゆな)

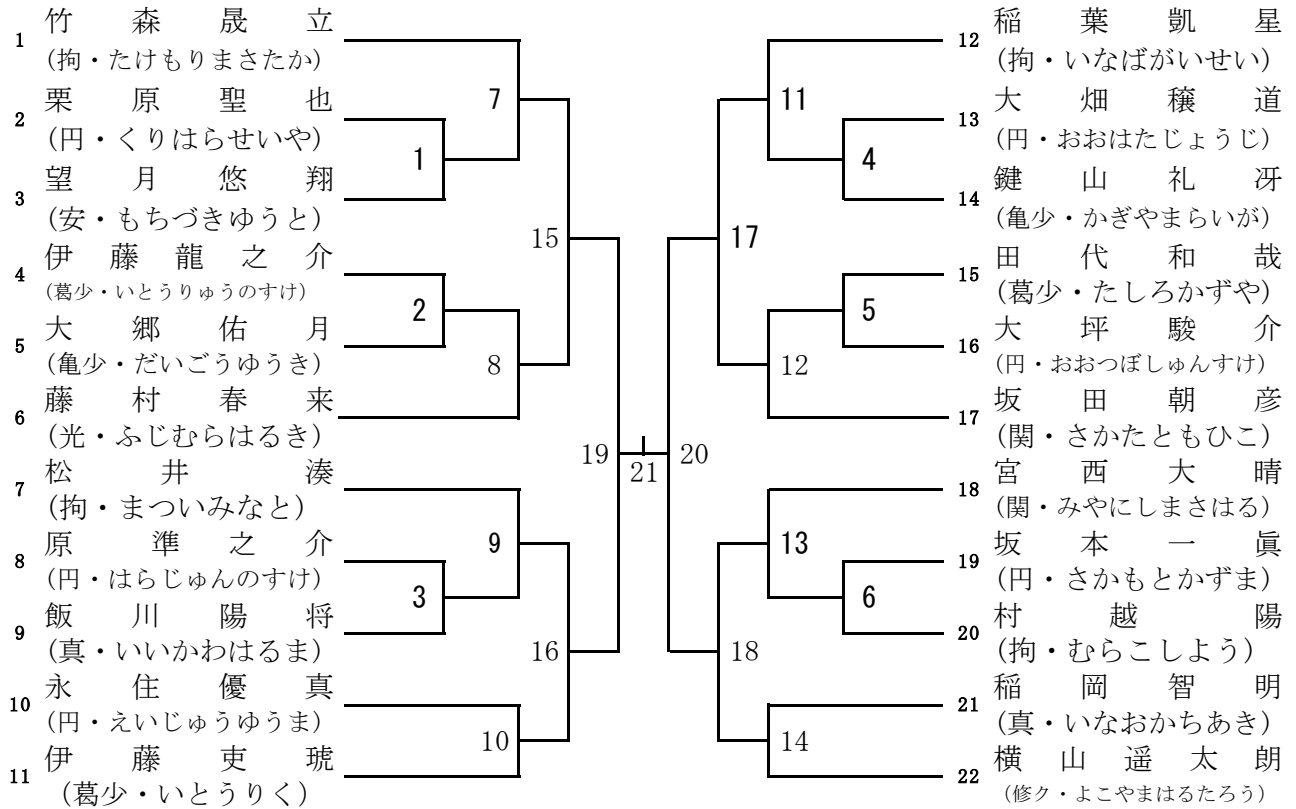
小学4年男子の部

1	村 越 翼 (拘・むらこしつばさ)	1	9	5	9	小 林 光 之 助 (修ク・こばやしこうのすけ)
2	山 本 隼 士 (真・やまもとはやと)			11	10	市 原 真 緒 (光・いちはらまお)
3	大 橋 樹 也 (光・おおはしたつや)	2		6	11	白 川 壮 一 (杉・しらかわそういち)
4	赤 塚 虎 ノ 介 (修ク・あかつかとらのすけ)		13	14	12	富 岡 弦 之 介 (修ク・とみおかげんのすけ)
5	藤 巻 大 和 (修ク・ふじまきやまと)	3	15	7	13	小 前 叶 愛 (修ク・こまえとわ)
6	高 橋 奏 太 (杉・たかはしそうた)		10	12	14	鹿 又 健 司 (円・かのまたけんじ)
7	武 井 駿 汰 (葛少・たけいしゅんた)	4		8	15	上 澤 響 (安・うえさわひびき)
8	東 雄 希 (修ク・あずまゆうき)				16	菅 原 進 次 (拘・すがわらしんじ)

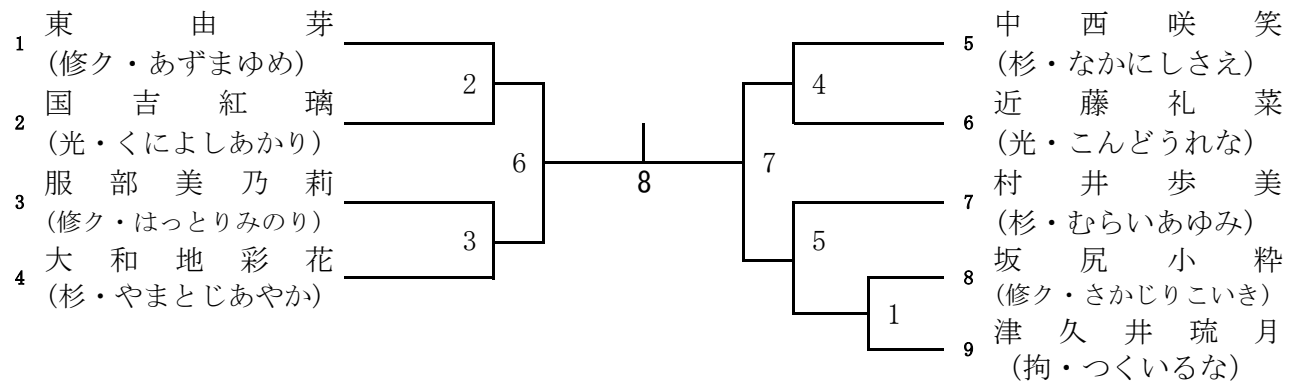
小学5年女子の部

1	小 林 咲 空 (小杉・こばやしさら)	2	4	3	3	坂 尻 果 埜 子 (修ク・さかじりかのこ)
2	飯 田 佳 奈 (修ク・いいだかな)			1	4	須 賀 千 絵 (小杉・すがちえ)
					5	浅 野 結 月 (一般・あさのゆづき)

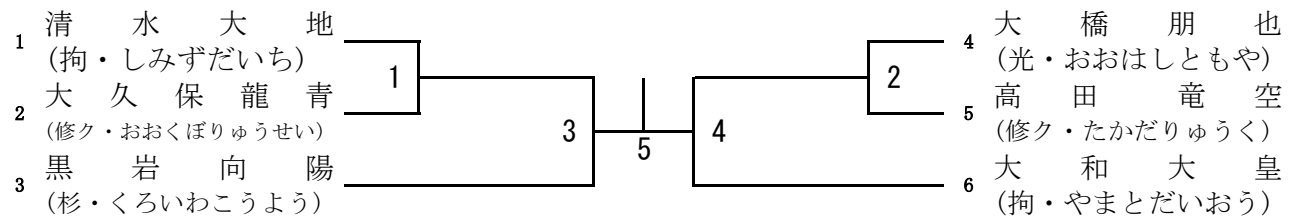
小学5年男子の部



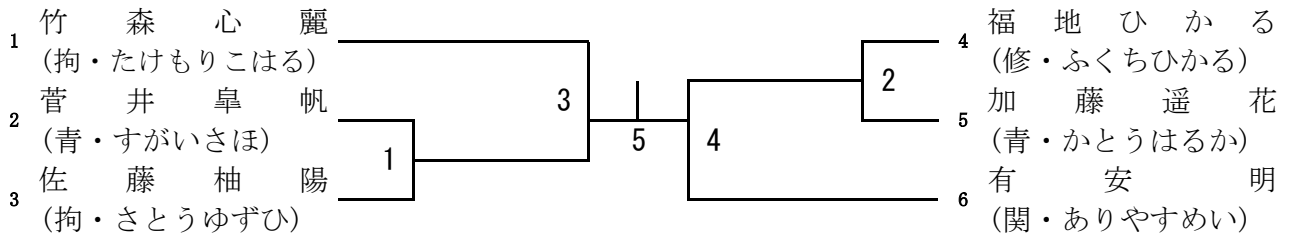
小学6年女子の部



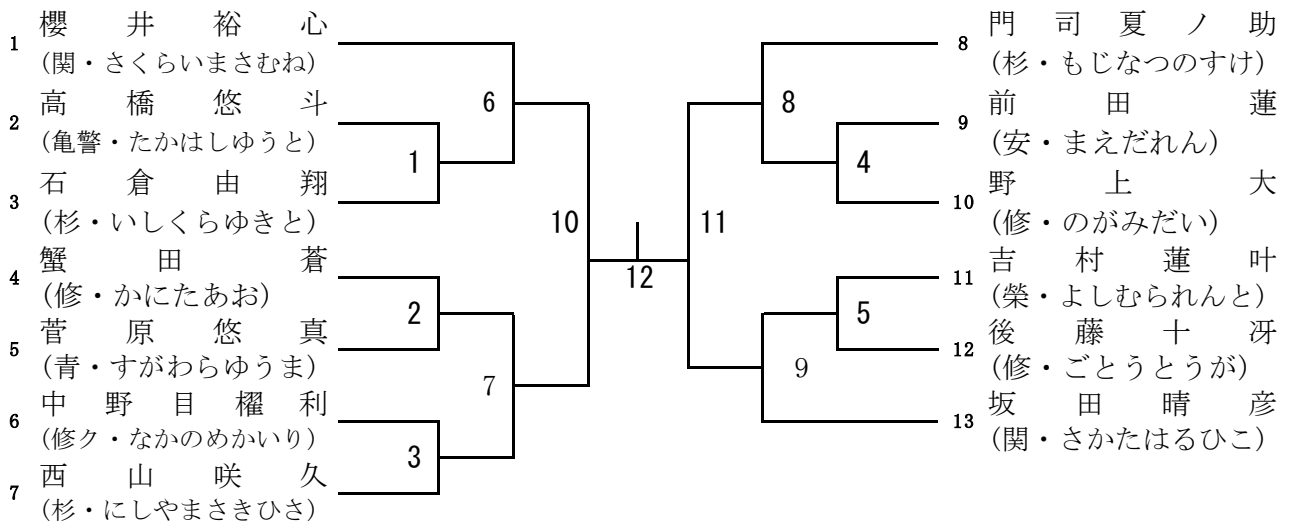
小学6年男子の部



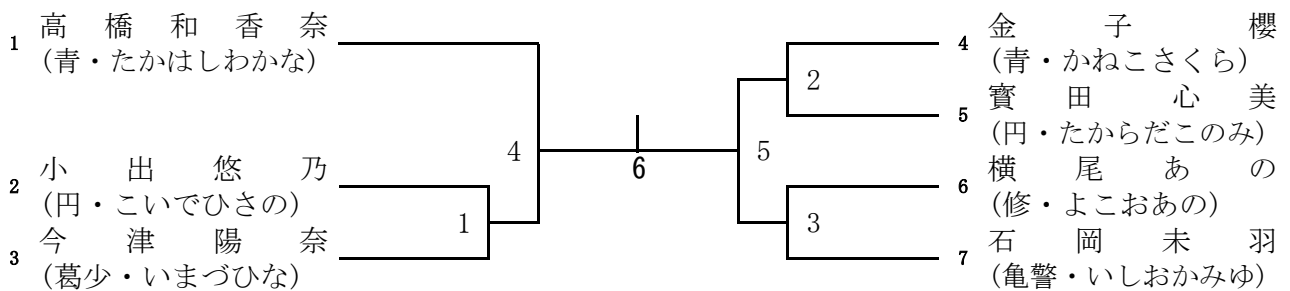
中学1年女子の部



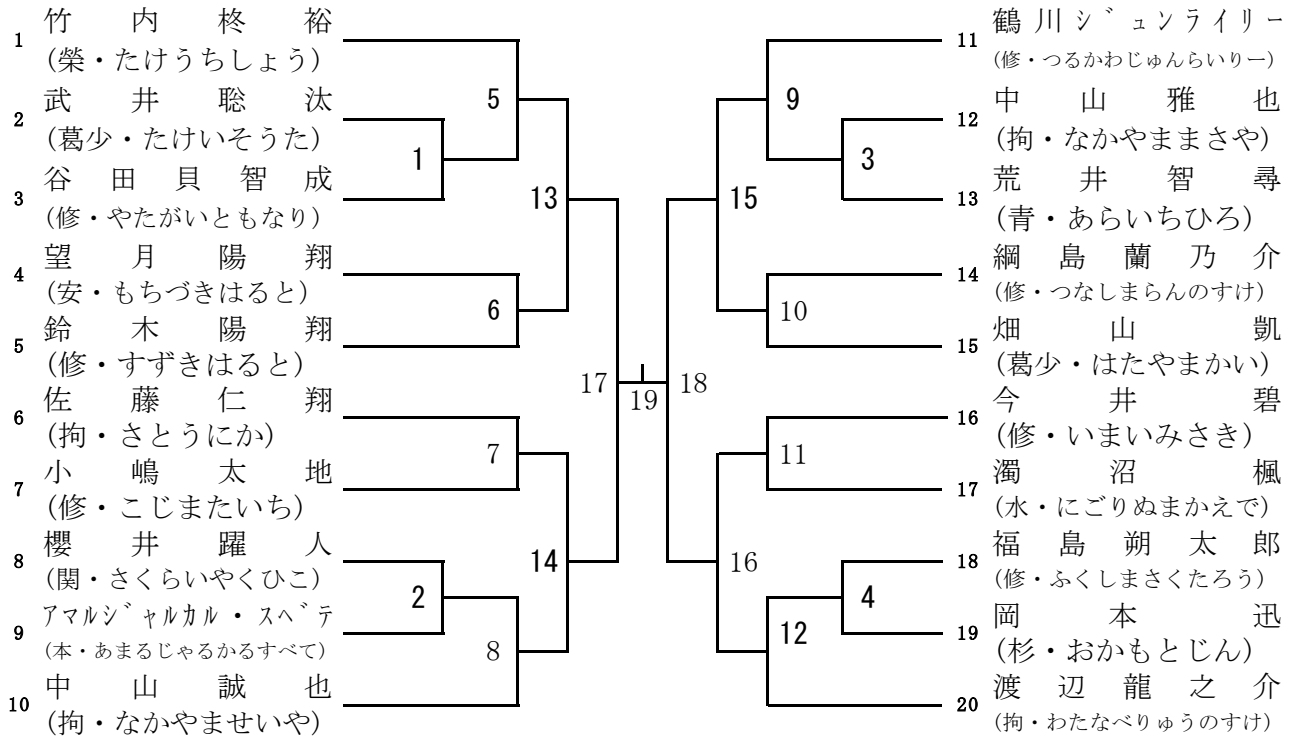
中学1年男子の部



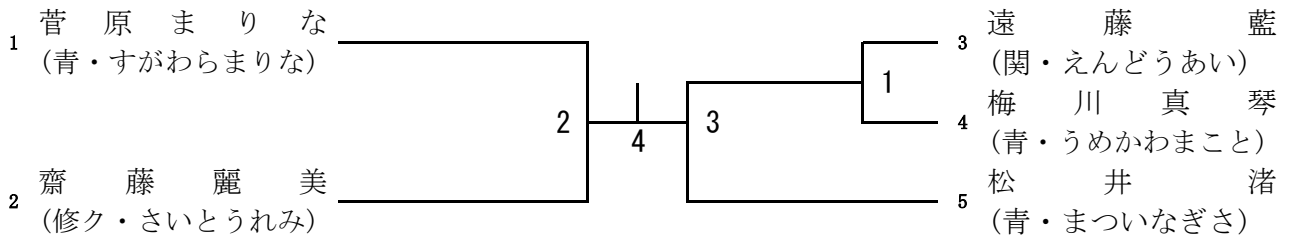
中学2年女子の部



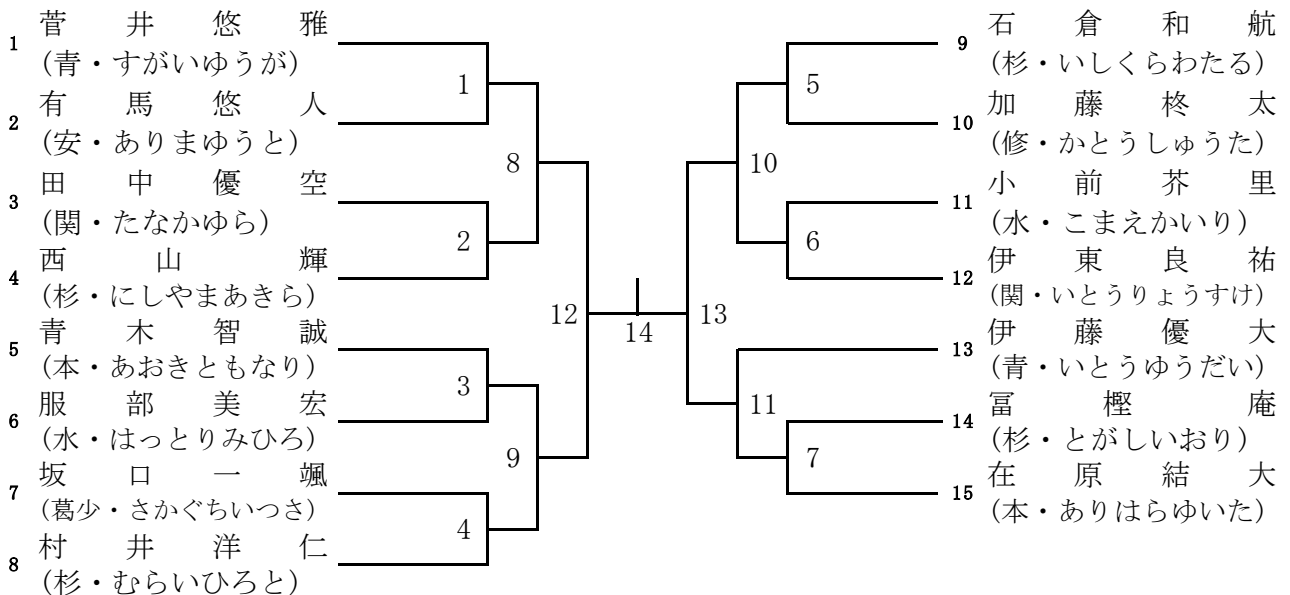
中学2年男子の部



中学3年女子の部



中学3年男子の部



青年女子の部

1	梁 瑛 世 (杉・やんよんせ)		2	村 井 美 心 (杉・むらいみお)
---	--------------------	--	---	----------------------

無段の部

1	堀口卓哉 (光・ほりぐちたくや)			3	ヴィスヌ・ガンス (安・ういすぬがんす)
		2	4	3	1
				4	村越三二 (葛野・むらこしさんじ)
2	村松瑛太 (葛野・むらまつえいた)			5	三澤義弘 (杉・みさわよしひろ)

初段の部

1	大 和 大 成 (修・やまとたいせい)				6	橋 本 辰 幸 (修・はしもとたつゆき)
2	菅 原 楓 斗 (葛野・)	3			5	瀬 野 和 樹 (杉・せのかずき)
3	大 熊 布 武 (修・おおくまふぶ)	1			2	星 國 聖 (修・ほしくにまさ)
4	渡 邊 天 (修・わたなべそら)		7	9	8	村 岡 陽 向 (修・むらおかひなた)
5	齋 藤 翔 成 (修・さいとうしょうせい)	4			6	實 田 心 音 (円・たからだしおん)

二段の部

	藤本	田中	中西	勝	負	順位
1	藤 本 健 太 (関・ふじもとけんた)	①	②			
2	田 中 直 毅 (安・たなかなおき)	①	③			
3	中 西 貴 久 (杉・なかにしたかひさ)	②	③			

*勝ち・・・○
負け・・・△

参段の部

1	川 上 武 士 (拘・かわかみたけし)	1	3	5	4	2	4	川 越 至 (関・かわごえいたる)
2	長 谷 川 黎 (拘・はせがわれい)						5	阿 部 敬 介 (拘・あべけいすけ)
3	蒲 田 賢 (関・かばたけん)						6	焼 谷 風 太 (拘・やけやふうた)